

第2学年 社会科（歴史的分野）学習指導案

日 時 平成25年10月1日（火） 5校時
学 級 2年A組（男子11名 女子6名 計17名）
指導者 教 諭 村木忍

1 単元名 産業の発達と幕府政治の動き（新しい社会 歴史 東京書籍）

2 単元について

（1）生徒観

歴史事象や時代の変遷を理解させるために、諸資料からの読み取りを中心に授業を展開している。読み取りの手段として、個人で調べる場面とグループで話し合う場面を設定し、1学期間は資料で押さえるべきポイントをチェックさせてから、読み取りを進めた。一貫してその作業を続けてきた結果、資料から得られるグラフの数量や傾向を読み取る力がついてきた。また、『グループによる読み取り→発表→板書のまとめ』という流れを定着させてきたことで、話し合いに積極的に参加し、分からないところは互いに意見を出し合う姿勢が身についた。他人の考え方や資料の読み取り方に何度も触れたことで、自分の中に読み取りの技能を取り入れた生徒も現れた。しかし、全体から見ると、個人で読み取ろうとする力はまだまだ定着が浅く、半数以上が自分の読み取りの結果に自信を持てずにいる。また、1つの資料から読み取ることは出来ても、複数の資料を比較・検討しながら読み取ることについてはほとんどの生徒が苦手としており、グループ学習を通して身につけさせている段階である。

岩手県学習定着度状況調査（平成24年度）を分析すると、正答率が50%を下回っている項目に共通するのは、資料『読み取り』の技能である。特に正答率が下がっているのは『複数の諸資料から読み取る』能力であり、今年度の学級（2学年）にも当てはまる課題である。まずは全員が、1つの資料から重要な手がかりとなるポイントをしっかりと押さえ、読み取りができることが第1段階と考えている。

（2）教材観

本単元は中学校学習指導要領〔歴史的分野〕2内容(2)-エ「社会の変動や欧米諸国の接近、幕府の政治改革、新しい学問・思想の動きなどを通して、幕府の政治が次第に行き詰まりをみせたことを理解させる」によるものである。どのような方法で理解させるかを考えると、歴史年表や地図資料を読み取ることを通してまとめさせ、ワークで確認作業を行うことで深めていきたい。近世の資料は実物資料が増え、当時の統計などもたくさん残っている。信憑性が高い資料を使うことで、当時の様子を感じるような授業展開を図っていく。

本単元は、社会が安定期に入った江戸時代の学習である。戦乱の世の中心となった武士が為政者となり、様々な政治改革を行いながら日本を統治していく。しかし一方で、産業の発展や文化の創造など、社会を担う原動力となったのは、庶民であ

る。庶民の活動と幕府の統治（政治改革）に着目し、両者を互いに関連付ける授業展開を図りたい。

(3) 指導観

資料が効果的に活用されるよう、生徒の理解力に合わせて資料を加工・修正する必要も出てくる。生徒の視点に立って読み取りやすい資料を準備するとともに、生徒の意欲・関心を喚起するような資料作成に努める。

授業の中で必ず地図帳を使用する場面を設けている。また、歴史の授業では年表を活用することが重要と考えるので、必ず活用する。その際、問題意識を持って読み取る場面と、作業を通して気づく場面の指導を使い分け、資料を活用する技能を高めさせていく。諸資料を活用する場合は視点を明らかにし、読み取った事象が教科書の文章のどの部分とリンクするのかをしっかりと捉えさせる。最後のまとめをしっかりと行うことによって、本単元の理解を深めさせたい。

3 単元の目標

- ・身近な地域の歴史的事象など具体的な事例を取り上げ、農業をはじめとする諸産業の発達の様子を理解させ、諸産業が発達した理由や影響を考えさせる。
- ・はなやかな町人文化や地方の生活文化に関心を持たせ、このような文化が広がった背景を理解させる。
- ・幕府による代表的な政治改革を取り上げておもな内容を理解させ、改革が必要になった理由を考えさせる。
- ・江戸時代における学問の発達を理解させ、その中に新しい時代を切り拓く動きが見られることに気づかせる。

4 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
・町人文化や各地方の生活文化、幕府政治の行き詰まりなど、近世の歴史的事象に対する関心を高め、意欲的に追求し、近世の特色を捉えようとするとともに、近世の文化遺産を尊重しようとする。	・産業や交通の発達、教育の普及と文化の広がり、社会の変動や欧米諸国の接近、幕府の政治改革、新しい学問・思想の動きなどについて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	・産業や交通の発達、教育の普及と文化の広がり、社会の変動や欧米諸国の接近、幕府の政治改革、新しい学問・思想の動きなどに関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	・町人文化が都市を中心に形成されたことや、各地方の生活文化が生まれたこと、幕府の政治が次第に行き詰まりをみせたことを理解し、その知識を身につけている。

5 単元の指導計画（全6時間 本時4／6）

時間	学習内容	評価規準			
		社会的事象への関心 ・意欲・態度	社会的な思考・判断 ・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
1	農業や諸産業の発達	江戸時代の産業の様子について関心を高め、身近な地域の郷土資料館などを利用して調べている。			産業、交通の発達によって貨幣経済が進展し、財力をつけた町人の力が増していったことを理解しその知識を身につけている。
2	都市の繁栄と元禄文化		江戸時代に都市が発達した理由を、幕府や藩の政治のしくみ、物資の流通などから考察し、説明している。	文学作品や図版などから、元禄文化の特色を読み取っている。	
3	享保の改革と社会の変化		幕府の政治改革の影響について、幕府・諸藩・農民などの立場から多面的・多角的に考察し、適切に表現している。	百姓一揆や打ちこわしの発生件数から社会の様子と変化を説明できるなど、グラフを活用している。	
4	田沼の政治と寛政の改革		田沼意次の政治と松平定信の政治を比較し、その特徴について考察し、説明している。	田沼意次の政治と松平定信の政治に対する庶民の評価を読み取っている。	
5	新しい学問と化政文化		国学と蘭学の発達や化政文化の特色を調べ、新しい学問や文化が生まれた背景を考察し、説明している。	藩校と寺子屋の広がりをもとに、全国に教育施設がつけられたことを読み取っている。	
6	外国船の出現と天保の改革		大塩平八郎が乱を起こした理由や天保の改革の内容を調べ、幕府政治が行き詰まっていることについて考察し、その過程や結果を説明している。		外国船の接近と蝦夷・権太探検を関連づけて幕府の対応をまとめ、幕府に新たな課題が生じたことを理解し、その知識を身につけている。

6 本時の指導（4／6）

（1）目標

- ・田沼意次の政治と松平定信の改革の特色を理解し、庶民の視点から二人の政策についての評価を考える

（2）研究に関わる授業構想

研究に関わって本時は、年表や地図帳を活用する指導を徹底する。特に年表の読み取りを苦手に行っているため、空欄に記入するなどの作業を通し、自分の考えを深めさせたい。

（3）評価の観点と評価規準

評価規準 評価の観点	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する生徒への手だて
社会的な思考・判断・表現	幕府の地位を回復し、商人を押さえようとしたことに考えが及んでいる	意次の政治と比較し、定信の改革が厳しすぎたことがノートに記入できる	定信の改革の項目で、庶民の視点から厳しいと思うものをチェックさせる
資料活用の技能	どちらも庶民や農民からは不評であったことを読み取ることができる	田沼意次の政治と寛政の改革の違いを読み取ることができる	田沼意次は商業に、松平定信は農業に基盤を置こうとしたことを机間指導する